

学校教育目標
心豊かで しなやかに
生きる力 を育成する

西ノ京

京都市立西ノ京中学校
学校だより ⑨
令和2(2020)年 12月 23日
校長 内田 隆寿



令和2年を振り返ろう！

～ コロナに負けない 新たなスタートのために ～

長期予報では、平年並みかラニーニャ現象の影響でやや寒いとの予想ですが、15日には初雪も観測され、冬の冷え込みが徐々に京都らしくなってきました。今年もあと8日を残すばかりとなりましたが、これまで保護者や地域の皆様方には、コロナ禍の中、本校の教育活動へ深い御理解と御協力をいただき、心から感謝申し上げます。

今日で長丁場の2学期が終わりますが、先が見えず、不安で大変だった令和2年を締めくくるにあたって、放送による終業式では、小説家である井上靖さんの「**努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る**」という言葉を紹介しました。

本来なら「クリスマスだ!」「お正月だ!」と、楽しい冬休みになるはずでしたが、感染者数が連日最大になるなど厳しい状況を何とか食い止めるため、今回はそれを楽しむことも少し控えて静かに過ごしましょうと、世の中すべてが自粛ムードで進んでいます。そこで、このような人々の行動を成功に導く原動力は何かについて考えてもらいました。それは「明るい明日、明るい未来を想像すること」だと私は思っています。もし、人が希望を語っているのなら、それはその人が「前向きに努力している人」である証です。希望が持てれば、そのために努力でき、努力ができれば、希望が叶うという好循環が起こります。逆に、不満ばかり語っている人は、何かにつけモチベーションも上がりません。モチベーションが上がらなければ努力できず、結果は何も達成できないという悪循環に陥ります。また、周囲にもいい影響は与えません。

「明日の希望」と「今の不満」、このどちらに目を向けるのか。現状に打ち克つために、私たちは意識的に希望に目を向けていく”努力”が必要なのではないでしょうか。ドイツのシュタインマイヤー大統領は、国民向けのスピーチで「**新型コロナウイルスの世界的な感染拡大は、国と国、兵と兵が戦っている戦争ではない。私たちの人間性が試されている。だから最高の姿を示そう**」と演説しました。既に多くの人が自粛によるストレスを感じ、そのストレスを身近な人にぶつけたり、他者を非難したりすることで解消しようとする行為があちこちでみられる中、どれだけ他者を思いやれるかが試されています。また、ある医療関係者は「感染症と戦う唯一の方法は、誠実さだ」と言っています。医療現場の人たちは今、まさに誠実さを持ってコロナと戦っています。医療関係者だけではありません。私たちの生活を支える職種に携わる人たちの誠実さなくして日常生活は成り立ちません。それぞれの職種の人たちが、自分の仕事において、何ができるかを考えながら誠実に行動しています。私たちも明るい未来に希望をもって、長期にわたり気を緩めず、疲れている状況でも誰も責めず、今できることを誠実にやる。これが、私たちがとるべき姿勢であり、そうして一人一人が希望を語る人になりたいものです。

禍い転じて
福となす。

一方で、アフターコロナ時代をより良いものにするために、新しい生き方をみつけること。これもまさに、私たち一人一人が人間性のテストをされていると言えるでしょう。海外ではいよいよワクチン接種が始まり、治療薬の開発とともに、直接コロナを打ち負かすための具体的な努力が行われていますが、私たち一人一人の前向きな生き方・考え方として、もう一つの言葉が思い出されます。それは、「**禍い転じて福となす**」ということわざです。コロナによるマイナスをプラスにしていけるために、何ができるかを考えるということです。今、目の前で起きている出来事は、現時点の見方ではトラブルや問題としか考えられていません。しかし、このことわざのように、私たちの考え方や行動によって災難をうまく利用し、より良い状態にすることもできます。禍いを福とするには、まず、状況に対して肯定的な見方をすることが必要です。学校でのアンケートからも「家庭学習の時間が増えた」「読書に親しむようになった」「家族との会話がなくなった」など福に転じた肯定的な結果がみられます。このように、状況に対して「あー最悪だ」「困った」「早くこの状況が変わらないかなあ」と受け身で否定ばかりするのではなく、「せっかくだから何かできないかな?」と物事を肯定的に見ることが大切です。例えば、「外出自粛だ。どこにも行けない。

努力する人は
希望を語り
怠ける人は
不満を語る

これは困った。」を「外出自粛だ。ちょうどよかった！家の片付けをしよう！」と考えてみると、普段できなかったことや気づかなかったこと、さらには「ついでに、ここもやっておこう！」と新しい発想やアイデアが生まれてきます。家族全員が家にいることが多い今、家事の役割分担を決めたり、思い切った片付けをしたりするなど、より快適な家庭環境にするチャンスです。ここで「それは無理でしょう」とか「今までのやり方を変えるのはちょっと…」と否定ばかりしてしまうと、禍いをただやり過ごすだけになってしまいます。コロナ禍をきっかけに上昇気流に乗るか、下降気流に乗って落ちてしまうかは、この考え次第だと思います。外出自粛という状況をチャンスと捉えれば、他にもいろいろなことが考えられるでしょう。このような状況だからこそ、変えるべきことをしっかりと変えておけば、未来はさらに生きやすくなり、もしかするとコロナ後の世界は、コロナ前より輝く世界になるかもしれません。

激動の令和2年が終わるにあたり、ぜひとも家族の人と一緒に、この一年や2学期の取組を振り返ってみてください。色々なことが思い出されることと思います。縮小や中止されたことは多くありましたが、それでも、一つ一つの行事や活動を通して、新たな知識、主体性や協調性、思いやりの心や最後までやり遂げる力など、様々な力や心が育ったことと思います。一人一人の思いや成果は異なるかもしれませんが、自己をしっかりと見つめ、成長した自分に自信をもつとともに、目標に向かって頑張った自分自身をほめてほしいと思います。そして、そのような取組から得られた力により、竹が節を重ねるように、一步一步成長していってくれることを願っています。



西／京中 健闘と栄誉の軌跡！遅くなりましたが、新人大会等の記録をお知らせします。

<p>女子バスケットボール部 第3位</p> <p>1回戦 対下京中 74-4 で勝利 2回戦 対京都御池中 43-11 で勝利 3回戦 対修学院中 60-18 で勝利 4回戦 対加茂川中 43-29 で勝利 準決勝 対京都精華学園中 51-59 で敗退 シード決定 対西京極中 65-55 で勝利</p>	<p>男子ソフトテニス部 第3位</p> <p>団体 予選L 対花山中、大淀中、嵯峨中 2勝1敗で2位通過 決勝T 1回戦 対音羽中 3-0 で勝利 2回戦 対桃山中 3-0 で勝利 3回戦 対檜原中 2-1 で勝利 4回戦 対嵯峨中 1-2 で敗退 個人 予選 上級の部 2ペアが通過 (うち1ペアが市ベスト16) 初級の部 2ペアが通過</p>
<p>男子バスケットボール部</p> <p>1回戦 対春日丘中 42-32 2回戦 対北野中 27-46</p>	<p>女子ソフトテニス部</p> <p>団体 予選L 対醍醐中、嘉楽中、大枝中 3勝0敗で1位通過 決勝T 2回戦 対勧修中 2-1 で勝利 3回戦 対嵯峨中 1-2 で敗退 (市ベスト16) 個人 予選 上級の部 1ペアが通過 初級の部 4ペアが通過</p>
<p>卓球部</p> <p>男子団体 予選L 対桃陵中、洛水中 2勝0敗で通過 予選T 対双ヶ丘中 3-2 で勝利 対安祥寺中 3-2 で勝利 対洛北中 1-3 で敗退 2位通過 決勝L 対松原中、神川中 0勝2敗で敗退 女子団体 予選L 対勧修中、高野中、西院中 0勝3敗で敗退</p>	<p>女子バレーボール部</p> <p>予選L 対洛南附属中 0-2 対洛北附属中 1-2 0勝2敗で敗退</p>
<p>野球部</p> <p>予選 1回戦 対東山泉・向島秀蓮中 9-0 で勝利 2回戦 対北野中 0-2 で敗退</p>	<p>美術部</p> <p>第36回京都市中学校総合文化祭美術展に 共同制作作品及び個人制作作品を出品</p>
<p>陸上部</p> <p>男女17名が出場するも予選突破ならず</p>	<p>硬式テニス</p> <p>女子シングルス 寺石 侑加 準優勝</p>